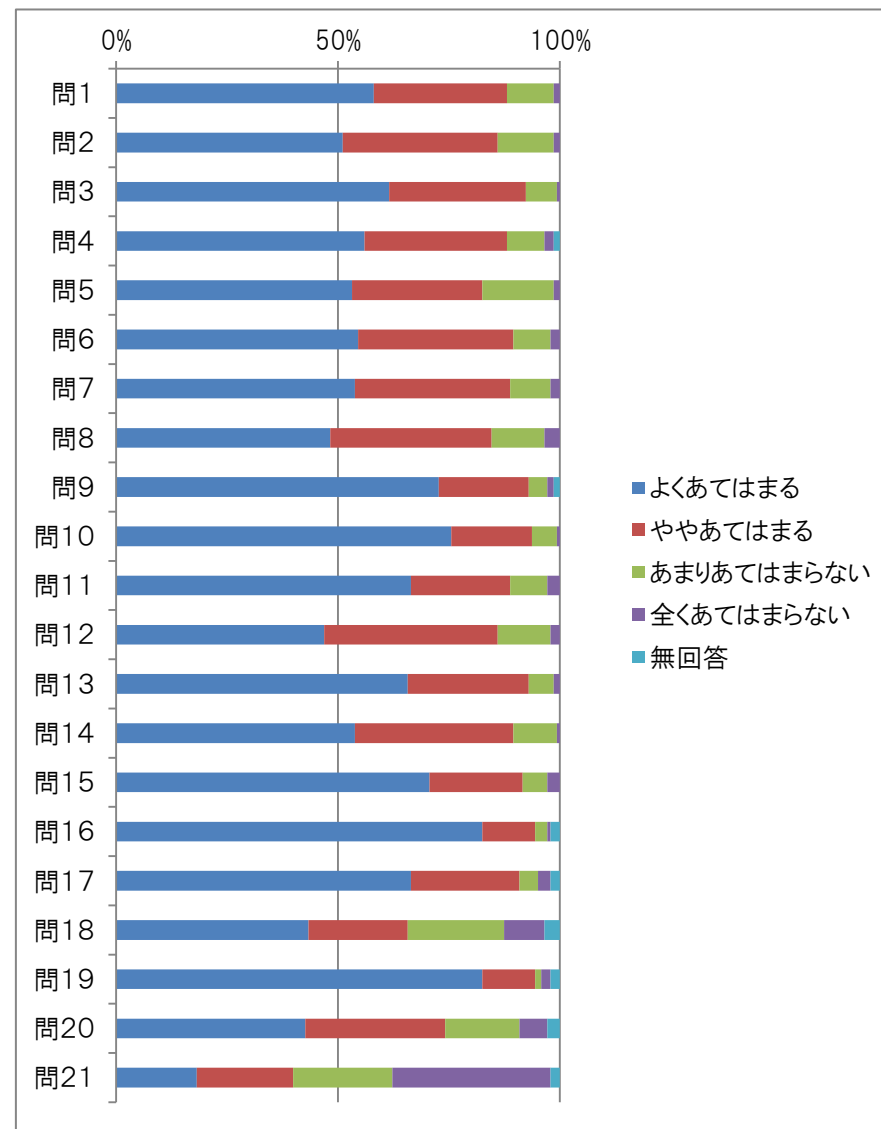


大阪府立たまがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

(本校生)

- 問1 学校へ行くのが楽しい
- 問2 先生はわたしたちの言うことをよく聞いてくれる
- 問3 先生は授業を工夫して、よくわかるように教えてくれる
- 問4 先生はわたしたち一人ひとりのことや障がいのことをわかってくれている
- 問5 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある
- 問6 授業でわからないことは、先生にききやすい
- 問7 先生は、私たちが頑張っていることや困っていることを取り上げてくれる
- 問8 先生は約束を守ってくれるし、なんでも相談できる
- 問9 卒業後の進路、仕事について考える授業がある
- 問10 たまがわフェスティバルやパックツアー・宿泊行事など学校行事はたのしい
- 問11 委員会活動や部活動に積極的に参加している
- 問12 授業でゆたかな心や人の生き方について考えることがある
- 問13 いのちの大切さや社会のきまりについて学習することがある
- 問14 先生は、自分や友だちがはずかしいことやいやなことにあわないように気をつけていてくれる
- 問15 先生は、学校で体罰がないように、気をつけている
- 問16 地震や火事などがおこった時、どうしたらよいかを教えてもらっている
- 問17 教室やとくべつ教室・体育館などは授業や生活がしやすいようにととのっている
- 問18 担任の先生以外にも、保健室や生徒会室で気軽に相談することができる先生がいる
- 問19 授業でコンピュータを使うことがある
- 問20 授業や行事で近くの学校や近所の人と交流することがある
- 問21 学校のホームページを見ることがある

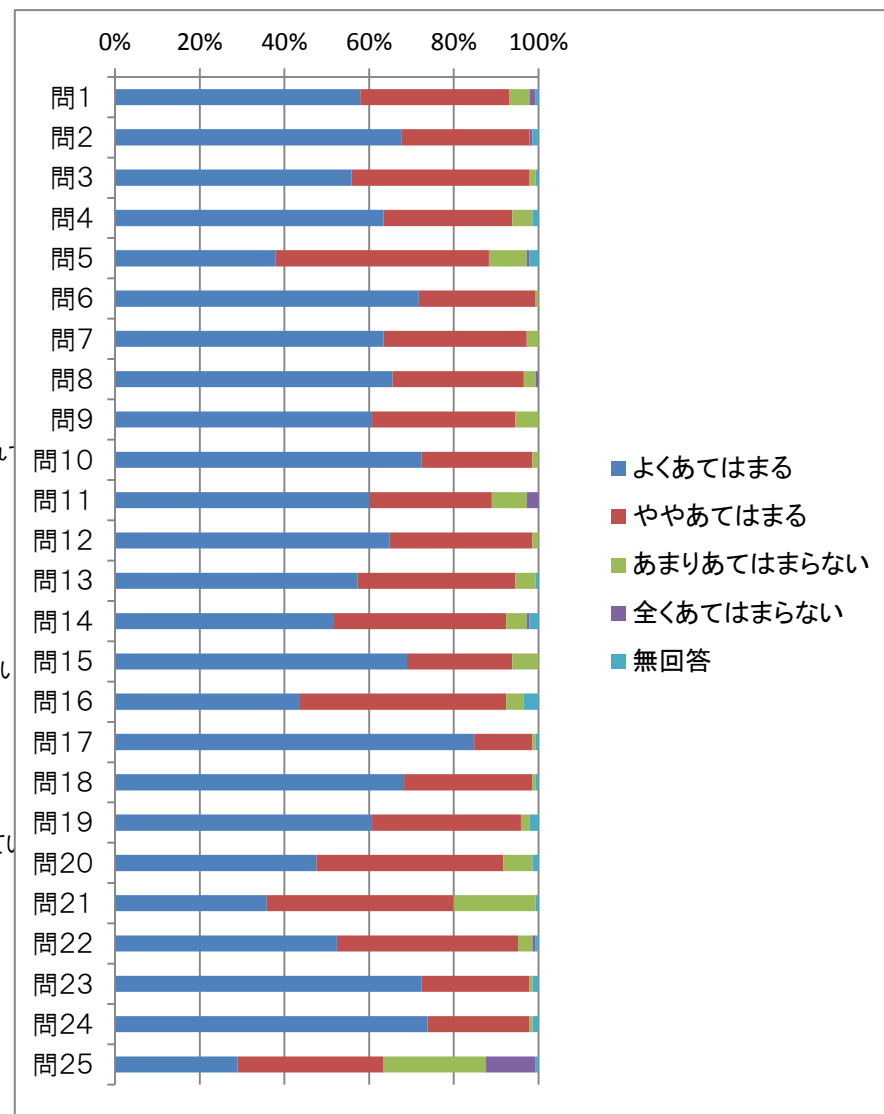


大阪府立たまがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

(本校保護者)

- 問1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている
- 問2 学校は、進路や職業について適切な指導を行っている
- 問3 学校は保護者のニーズを踏まえて、特色のある教育 活動に取り組んでいる
- 問4 教職員は、子どもの障がいについて理解している
- 問5 子どもは、授業が楽しくわかりやすいといっている
- 問6 学習の内容・学校生活の様子を懇談や学級(学年)通信、連絡帳などによって、知ることができる
- 問7 教職員は、子どもの学習 状況や努力を適切・公平に評価している
- 問8 教職員は、いじめのない学習 集団づくりに取り組んでいる
- 問9 保護者は、子どもの心身の健康や障がいの状況について、気軽に学校に相談できる
- 問10 たまがわフェスティバルやバックツアー・宿泊 行事や修学旅行などの学校行事は、参加しやすいように工夫されている
- 問11 子どもは、積極的に委員会活動や部活動に参加している
- 問12 学校は、生命を大切にする心や、社会のルールを守るための指導を行っている
- 問13 教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重した指導を行っている
- 問14 学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている
- 問15 学校からは、地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている
- 問16 学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している
- 問17 学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている
- 問18 学校では、子どもに関するプライバシーが守られている
- 問19 学校は、文書や学校ホームページを用いて、保護者や地域へ適切な情報発信や意思疎通を行っている
- 問20 学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている
- 問21 学校は、子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている
- 問22 学校ではPTA活動が活発に行われている
- 問23 個別の指導計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成し、適切な説明を行っている
- 問24 個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成し、適切な説明を行っている
- 問25 学校のホームページを見ることがある

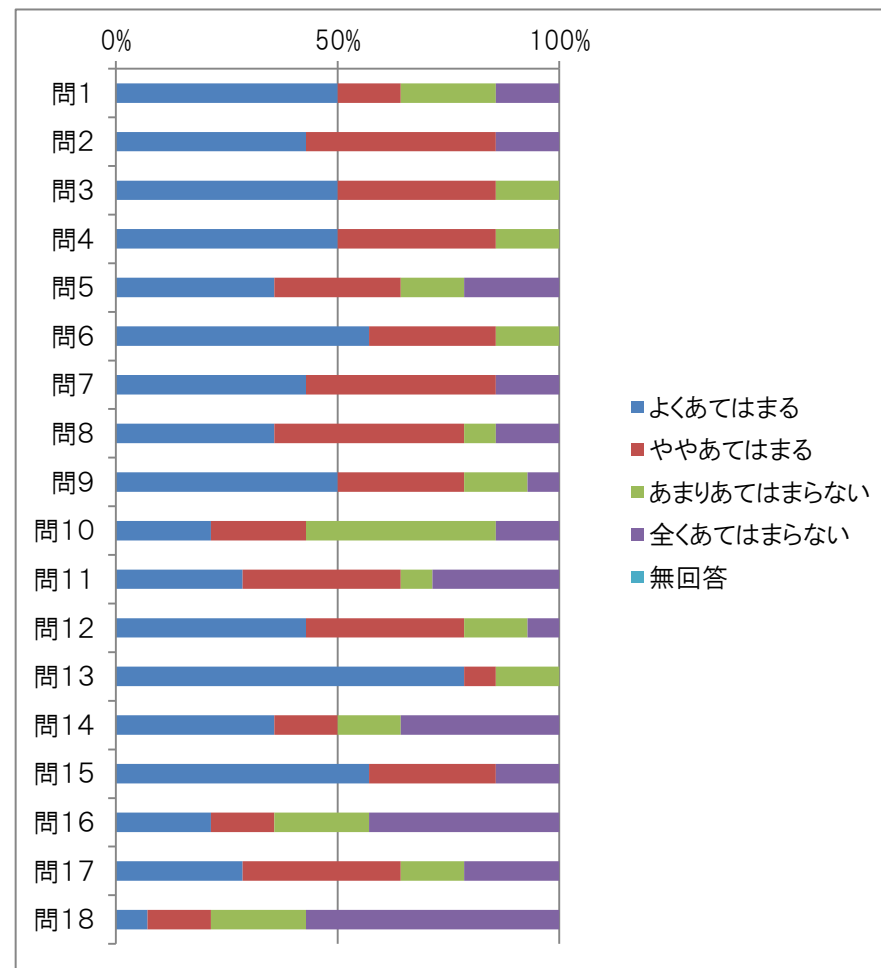


大阪府立たまがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

(共生推進教室生徒)

- 問1 学校へ行くのが楽しい
- 問2 先生は、わたしたちの言うことをよく聞いてくれる
- 問3 先生は、授業を工夫して、よくわかるように教えてくれる
- 問4 先生は、わたしたち一人ひとりのことや障がいのことをわかってくれている
- 問5 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある
- 問6 授業でわからないことは、先生にききやすい
- 問7 先生は、私たちが頑張っていることや困っていることを取り上げてくれる
- 問8 先生は約束を守ってくれるし、なんでも相談できる
- 問9 卒業後の進路、仕事について考える授業がある
- 問10 授業でゆたかな心や人の生き方について考えることがある
- 問11 いのちの大切さや社会のきまりについて学習することがある
- 問12 先生は、自分や友だちがはずかしいことやいやなことにあわないように気をつけていてくれる
- 問13 先生は、学校で体罰がないように、気をつけている
- 問14 地震や火事などがおこった時、どうしたらよいかを教えてもらっている
- 問15 教室やとくべつ教室・体育館などは授業や生活がしやすいようにととのっている
- 問16 授業でコンピュータを使うことがある
- 問17 設置校の先生だけでなく、たまがわ高等支援学校本校の先生にも、気軽に相談できる先生がいる
- 問18 たまがわ高等支援学校のホームページを見ることある

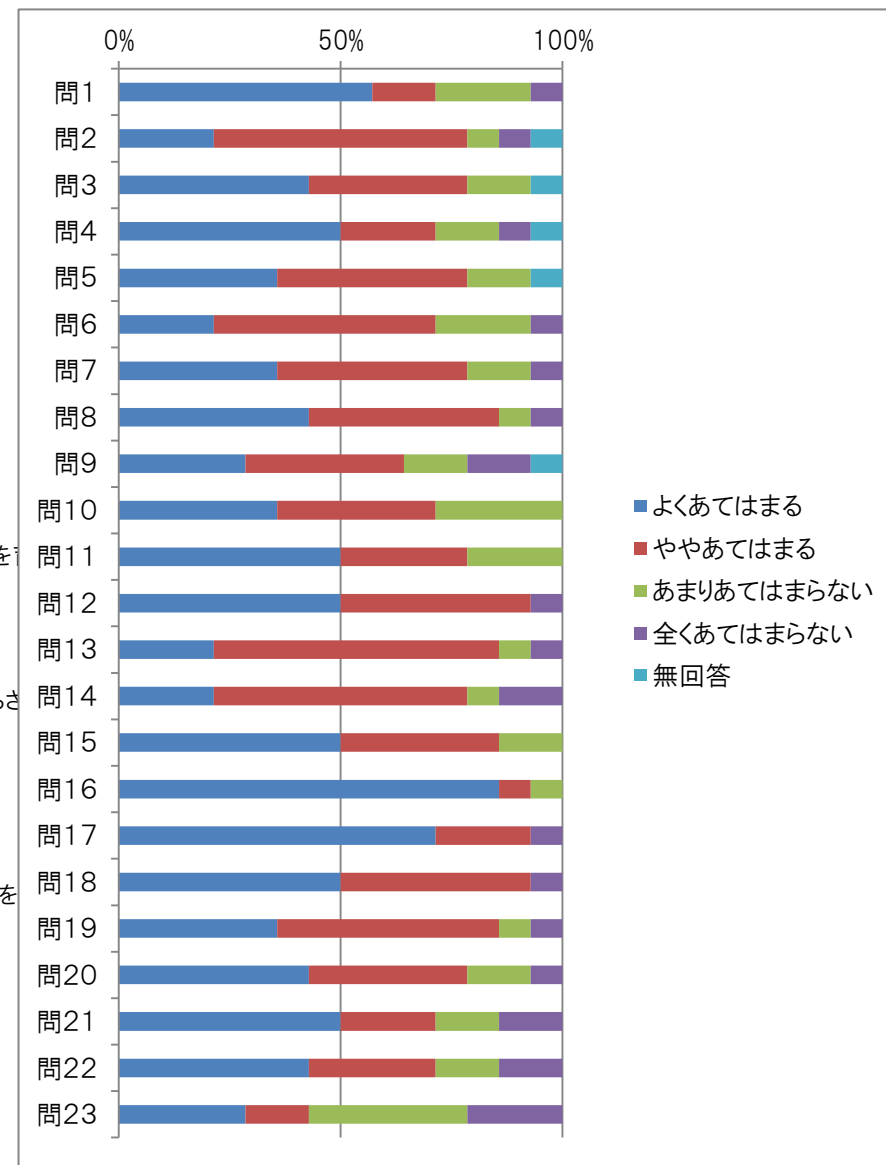


大阪府立たまがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

(共生推進教室保護者)

- 問1 子どもはたまがわ高等支援学校へ行くのを楽しみにしている
- 問2 たまがわ高等支援学校は、進路や職業について適切な指導を行っている
- 問3 たまがわ高等支援学校は保護者のニーズを踏まえて、特色のある教育 活動に取り組んでいる
- 問4 教職員は、子どもの障がいについて理解している
- 問5 子どもは、授業が楽しくわかりやすいといっている
- 問6 学習の内容・学校生活の様子を懇談や学級(学年)通信、連絡帳などによって、知ることができる
- 問7 教職員は、子どもの学習 状況や努力を適切・公平に評価している
- 問8 教職員は、いじめのない学習 集団づくりに取り組んでいる
- 問9 たまがわ高等支援学校は、子どもの心身の健康や障がいの状況について、気軽に学校に相談できる
- 問10 子どもは、積極的に授業 等に参加している
- 問11 たまがわ高等支援学校は、子どもの発達段階や実態に応じて生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を
- 問12 教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている
- 問13 たまがわ高等支援学校は、学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている
- 問14 たまがわ高等支援学校からは、地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らさ
- 問15 たまがわ高等支援学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している
- 問16 たまがわ高等支援学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている
- 問17 たまがわ高等支援学校では、子どもに関するプライバシーが守られている
- 問18 たまがわ高等支援学校は、文書や学校ホームページを用いて、保護者や地域へ適切な情報 発信や意思疎通を
- 問19 たまがわ高等支援学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている
- 問20 たまがわ高等支援学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている
- 問21 個別の指導計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成し、適切な説明を行っている
- 問22 個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成し、適切な説明を行っている
- 問23 たまがわ高等支援学校のホームページを見ることがある

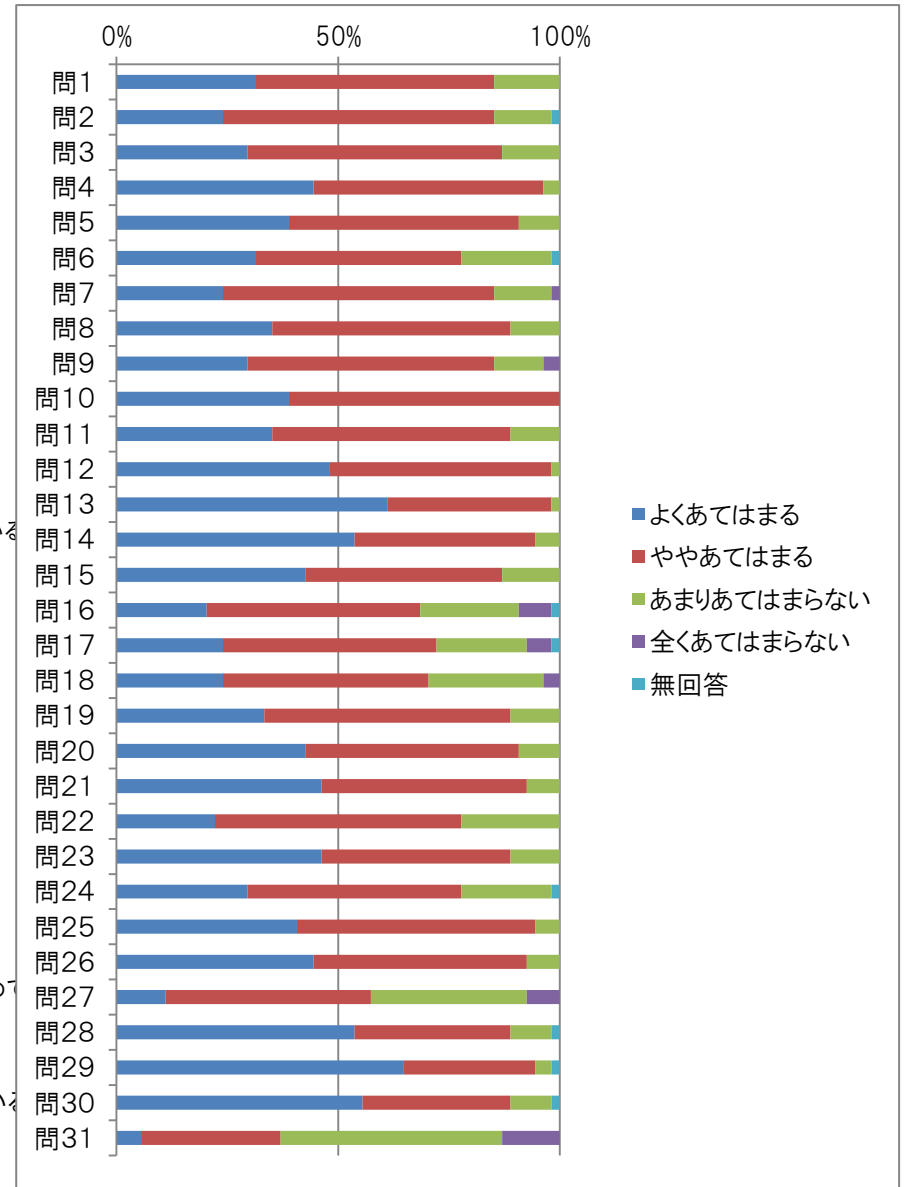


大阪府立たまたがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

(教職員)

- 問1 学校の教育について、教職員で日常的に話し合っている
- 問2 教育課程の編成に当たって学習指導要領の趣旨が生かされている
- 問3 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている
- 問4 学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている
- 問5 指導内容については、生徒の実態に合うように、教職員間で話し合いがもたれている
- 問6 学習形態の工夫・改善・評価の在り方について話し合う機会がある
- 問7 自立活動指導に当たっては、生徒が興味をもって主体的に取り組めるよう工夫している
- 問8 この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている
- 問9 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる
- 問10 生活指導において、家庭や関係機関との連携ができています
- 問11 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている
- 問12 教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している
- 問13 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている
- 問14 生徒一人ひとりの人権が守られ、体罰やセクシュアル・ハラスメントを防止するための教職員連携が図られている
- 問15 学校の諸活動において安全指導が徹底している
- 問16 学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されており、教職員の意見が反映されている
- 問17 各分掌や各部・学年間の連携が円滑に行われ、会議の内容も学校運営に反映されている
- 問18 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています
- 問19 この職場においては教職員の服務規律への自覚が高い
- 問20 事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている
- 問21 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている
- 問22 コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている
- 問23 校内研修等を通して、初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている
- 問24 教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている
- 問25 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している
- 問26 教育活動に必要な情報について、文書や学校ホームページ、生徒・保護者や地域への周知に努めている
- 問27 教職員はPTA活動に参加している
- 問28 個別の指導計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成している
- 問29 個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえ作成し、保護者に開示し説明している
- 問30 個別の指導計画ならびに個別の教育支援計画と教育課程、通知等との関連を明確化している
- 問31 ライフワークバランスはとれている



大阪府立たまたがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

2. 本校のアンケート概要：設問数・回答数・回答率

| | 設問数 | 対象数 | | 回答数 | | 回答率 | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| | | 28年度 | 27年度 | 28年度 | 27年度 | 28年度 | 27年度 |
| 生徒 | 21 | 191 | 189 | 143 | 144 | 75% | 76% |
| 保護者 | 25 | 191 | 189 | 145 | 144 | 76% | 76% |
| 教職員 | 31 | 77 | 78 | 54 | 55 | 70% | 71% |

- ① アンケート対象 本校生徒・保護者・教職員
- ② アンケート期間 平成28年12月6日(火)～12月13日(火)
- ③ アンケート方式 持ち帰り自宅記入、無記名
- ④ 設問数・設問内容は昨年度と同じ

3. 共生推進教室のアンケート概要：設問数・回答数・回答率

| | 設問数 | 対象数 | | 回答数 | | 回答率 | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| | | 28年度 | 27年度 | 28年度 | 27年度 | 28年度 | 27年度 |
| 生徒 | 18 | 17 | 20 | 14 | 16 | 82% | 80% |
| 保護者 | 23 | 17 | 20 | 14 | 16 | 82% | 80% |

- ① アンケート対象 共生推進教室生徒・保護者
- ② 期間・方法は本校に同じ。ただし、共生推進校の構成が変わっている
H28(H27)1年:6(5)、2年:5(6)、3年:6(9)、計17(20)人

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成28年度 学校教育自己診断アンケート結果

【設問内容と回答のグラフ】

4. 分析

回答率は生徒・保護者と教職員ともに前年度とほぼ同じとなった。アンケートの提出と学校教育への関心とは必ずしもイコールではないが、本校の学校教育全般により関心を持っていただくためにもできるだけ多く回答していただけるよう周知する必要があると考える。

①本校生の回答

前年度比5%以上向上している設問が約半数の10問あり、昨年度の4問(問4, 8, 14, 21)に対し倍増している。良い数字の出た設問を見ると、生徒たちが「経験・体験したこと」を実感していることが数字として表れていると思われる。その中で、数字は上がっているが問18が依然として低位であることについては、担任に話を聞いてもらえているとは実感をしているものの、相談室の未整備などの物理的な背景が伸び悩みの原因ではないかと考える。

②本校保護者の回答

前年度比5%以上向上している設問が7つあり、全設問25問のうち、22問で90%以上の好回答を得ていることは、日々の本校教員の取り組みが実を結びつつあると考える。ただ、回答率が76%では、まだまだ工夫改善の余地があると思われるので、この結果に甘んじることなく、日々の成果の取り組みを更に充実させ研鑽にはげみたい。

③共生推進教室生の回答

本校生の生徒に比べ数字は低く、前年度より5%以上下がった設問が4つあり、いずれも20%以上低下している。大きな低下ではあるが設問内容を見ると、本校での学習内容と言うより、設置校で学ぶ内容であると思われる部分もある。ただ、どれも共生推進教室の生徒にとっても大切な学習内容であるので、設置校教員と共有、連携を行う必要がある。

④共生推進教室保護者の回答

前年度比5%以上向上した項目が15もあるものの、本校保護者に比べて%の数字は低い。設置校教員との更なる連携を進めた教育活動の充実と、本校からの積極的な情報共有が欠かせない。

⑤教職員の回答

教職員の回答においては、前年度比5%以上向上した項目が7つ、加えて90%以上の好回答を得ている設問が17問ある。ただ、回答率が7割しかなく、向上させることが必要。また、前年度比5%以上低くなった設問が4つある。そのうち問15については、学校教育活動の根幹をなすものと考えるので、全教職員で意識を高め、周知徹底する必要がある。前年度より5%以上低くなり、もっとも数字の低い設問は問31である。「働き方改革」が社会的な関心になっている現状をふまえ、管理職や労働安全衛生委員会を中心に全教職員で取り組みを進めていかなければならないと考える。